

ABIC 国際社会貢献センター Information Letter

No.29 2010年11月

| | | |
|------------|---|-------------|
| 政府機関関連への協力 | 再びインドで外交官として 人・くらし イン アルゼンチン | 2 3 |
| 教育 | タイから来日の修士課程の学生に講義 関西での「英語で教える」講義法講習会を開催 日本貿易会／ABIC／関西学院大学／青山学院大学共催プロジェクト 第4回高校生国際交流の集い | 4 5 6 |
| 留学生支援 | 東京国際交流館での「日本語広場」講師を終えて 東京国際交流館 国際交流フェスティバルと新入館者歓迎バザー | 8 9 |
| ボランティア活動 | 今年も懲りずに椅子人間（チェアパーソン） —英語ディベート大会はABICの独壇場？— | 10 |
| 新刊紹介 | 『仏英日対照 ビジネスフランス単語集』 | 7 |
| 事務局だより | ABIC事務局組織 | 11 |
| | 新入会員（正会員）紹介 | 12 |
| | 会員入会のお願い | 12 |
| | 法人・個人正会員／賛助会員／活動会員一覧 | 12 |

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル6階 (社)日本貿易会内
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5979
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 pia NPO 4階 403号室
Tel & Fax : 06-4395-1188
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

政府機関関連への協力

再びインドで外交官として

任期付外務省職員（在外公館職員）**遠山 晃**（元丸紅）

私は丸紅(株)に1977年から2000年まで在籍、その間、情報通信分野でODA案件を主に担当、そして1997年から2000年まで3年間インドのデリーに駐在した。

任期付き外務省職員募集については、ABICからの連絡により知った次第で、募集要領の中に「ODA案件取組み経験者、在外公館勤務」という文字を見た瞬間、これだ！と思い、何の迷いもなく応募した。外交官になるというは中学時代の夢だったからである。

我が国の在外公館・代表部、外交官の数は主要国の中では一番少なく、今後質量ともに増強していく必要がある。その一環として、2008年度から、経協担当官を民間から採用するということで任期付き外務省職員（経協担当）の募集が始まった。

今までわずか4名のみの採用であるが、昨年は丸紅OBの杉浦勉氏がブルキナファソ大使となられ、今年は伊藤忠OBの丹羽宇一朗氏が中国大使となられたように、継続して商社OBが外交官として採用されていることは非常に喜ばしく思う。

昨年4月1日入省後、研修を経て、4月末にムンバイ総領事館着任となったわけであるが、空港に着いてまず驚いたのは、10年前には空港出口にたむろしていて、さばくのに大変苦労したポーターや白タクが全くなくなり、なんとも綺麗な空港に生まれ変わっていたことである。そして、昼間街を歩いても、当時歩道に溢れていた路上生活者がほとんどいなくなっていたことは大変な驚きであった。

街並みも高層マンションが雨後の竹の子のように乱立し、この10年でのインドの経済成長を実感した。今住んでいるマンションも、ムンバイ市内にある36階建の高層マンションで、付設のプール、テニスコート、ジムなどが利用出来、この中にいる限りはインドにいることを忘れてしまうほどである。また、2014年には157階建という居住用建物としては世界最高層となるマンションが近くに建設される予定で、ムンバイのマンション建設は過熱する一途である。



次々に誕生する大型ショッピングモール

経協担当領事としての仕事は、主に草の根無償案件の形成、フォローである。これは、草の根外部委嘱員、現地スタッフと共に案件形成、



草の根無償案件完成記念テープカット



草の根無償案件完成式典にて筆者（左）

事前調査、契約、完了視察、フォローアップなどを行うもので、ムンバイ総領事館では毎年数件の契約調印を行う。既に10件以上の完了視察を行ったが（夜行列車で10時間以上かけて現場に行ったり、最寄りの空港から車で4～5時間かけて行ったりで、移動が大変）、現場では毎回、被供与団体に加え、周辺の児童や村人が集まって大歓待してくれる。こうして、たくさんの善意にふれて帰って来ると心が洗われた思いがする。

この他にも、経済関係の出張者や各省大臣が来られた際の便宜供与があり、特に昨年末、鳩山総理夫妻がムンバイに来られた際は、周辺公館からも大勢の応援出張を得て何とか無事に全ての行事を終えたが、長い準備期間、当日の緊張感から開放されたためか、最後専用機が空港を離陸する時は、ほっとして思わず泣き出す女性職員もいたほどであった。

着任以来どんな仕事であっても私にとっては新鮮で楽しく行えることに幸せを感じており、外務省、きっかけをいただいたABIC、ムンバイ総領事館の皆様には御礼を申し上げたい。

政府機関関連への協力

人・くらし イン アルゼンチン

ひご てるお
肥後 照雄 (元ソニー)

プロフィール：1998年、ソニーを早期退職し、1999年、初めてJICAの仕事でベトナムに短期出張。これを契機にアルゼンチン（以下、亜国）、東欧、ガーナ、再び亜国と継続してJICAの業務に従事している。

活動紹介：JICAシニア・ボランティアとして、亜国コルドバ州コルドバ市にある配属先「国立工業技術院」に着任して丁度一年間経過。活動地域はコルドバ市を拠点に、近隣地域コルドバ州、サンタフェ州の6市町村の中小企業を定期巡回。また、現地要請により短期間だが、メンドサ市、フフィ市の中企業も訪問。

ミッションは、「国際企業と対抗できる競争力の強化、品質・コスト・納期・アフターサービスなどの確実な履行、定着など経営改善と企業体质改善」活動。具体的には、企業診断、改善対策と行動計画提案、配属先パートナーへの技術移転、改善に関するワークショップ、セミナーの開催・講師など。

感想：一年間で国内出張・企業／団体訪問は延べ100回、移動距離は約4万キロ（日本—ブエノス・アイレス往復の距離）、訪問企業は計40社となった。

これらより、亜国・中小企業が持つ共通的問題点として、①企業戦略がない（売り込む姿勢がないなど）、②マーケティング活動が不足（グローバル市場に競合できないなど）、③生産活動が低い（稼働率が低い、品質・コスト・納期・アフターサービスなどの認識薄いなど）が明確になってきた。

また、中小企業を支援・指導する立場の人達も、企業の本当に必要な改善を実施していない、正しい手法・方法で支援・指導していない、企業との信頼関係を構築していないなども解った。残りの一年間で技術移転していきたいと思う。

現地の紹介：コルドバ州は、人口3百万人、面積165平方キロメートル。工業と工芸、伝統と斬新、文化と観光、亜



新商品開発に関しアドバイス中の筆者

国で最も重要な経済中心地のひとつと言われている。その州都コルドバ市は、首都ブエノス・アイレスから北西800キロ、亜国の中央部に位置し、亜国第二の都市（人口1.2百万人）。亜国で初の大学と司教教区が設立された歴史の古い町でもある。

市街から遠方にコルドバ山脈の山々の連なりが見え、郊外に足を少し延ばすと、森、丘、湖、川、滝など起伏と変化に富んでいる。この大自然と温暖な気候、大自然とコロニアル風の建築モニュメントが特徴。緑と自然の豊かな保養地として観光施設が整い、シーズン中には多くの旅行者が訪れる。

生活上の特色：娯楽は、ウィークエンドはテニス、ウィークデイは日本にいた時と同じように、夕食後はもっぱらTV観覧で時間をつぶしている。

日本食材は、当市でも米、みそ、醤油、麺類など、また、豆腐、納豆も時々、スーパーでハクサイ、大根、モヤシなども手に入る。ただ、コルドバは内陸に位置するため、加えて、現地の人が食べないこともあります、刺身で食べられる新鮮な魚介類はない。しかし、「郷に入っては郷に従え」。当国の牛肉と赤ワインは安くて美味しい、「アサド（炭火焼ステーキ）」は日本では味わえない絶品で、牛肉・赤ワイン好きの人にはたまらない処である。

エピソード：着任してすぐ入会したテニスクラブで、私は歳の差、人種や言語の違い、仕事の職種や経験、そしてテニス・スタイルが全く異なる亜国人A氏と意気投合。以来、家族ぐるみの付き合いをしている。公私に亘りいろいろ支援・助言してくれ、亜国のベストフレンドである。「友情や人情に国境はない」。今までで一番心に残っているエピソードである。

JICA「ワールドレポーター」の下記ブログもご覧ください。URL <http://worldreporter.jica.go.jp/s21-2higo>



テニスの仲間たちと筆者（左端）

教 育

タイから来日の修士課程の学生に講義

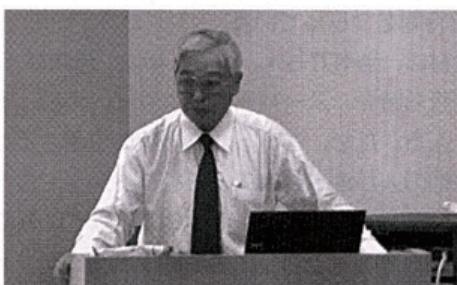
たにがわ たつ お
谷川 達夫 (大学講座等コーディネーター、元住友商事)

国際化戦略を加速して進める一橋大学でABICは、英語で講義する授業4講座を2010年4月から担当し始めている。それに続き、今回タイから来日した大学院生に講義を行った。

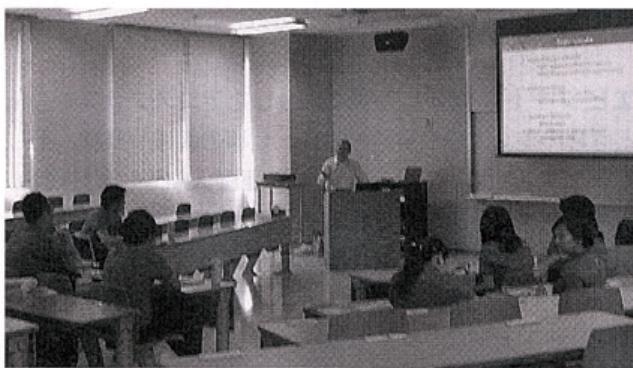
一橋大学はタイのタマサート大学と25年以上協定を結んで提携をしており、今年も1934年に創立され長い歴史と伝統のあるタマサート大学IMBA (International MBA) の短期研修のホスト校を2007年、2009年に続き務めた。7月19日の週に7名の学生と引率の教官が来日し、ABICは7月23日（金）に国立の一橋大学で二つのテーマで講義を行った。

タマサートの大学院生は、現在、就職して仕事を持ちながら大学院で勉強しており、問題意識は非常に高かった。また、全員以前に来日あるいは日本の大学を卒業した経験を持っている。従って、来日前に日本で学びたいことや訪問したい企業について具体的な希望を連絡してきていた。そこで、ABICとしては、その中で以下の2つのテーマについて英語で講義を行った。

1. 日本の総合商社の機能と役割について (谷川 達夫
元住友商事)
2. 日本に商品（特にタイ製品）を売り込むためには
(奥野 勧昭 元ユアサ商事)



奥野講師



講義する筆者



来日した7名の学生と一橋大学太田浩教授（中央）

第1限の総合商社については、業務で日本の商社から原材料を購買する業務を担当している受講生もいた。従って当然日本の総合商社名や業容についての基礎知識は持っていた。講義としては、商社の機能や総合力の源泉、商社発展の歴史についても、実際の商社の広報用DVDなどを見せながら説明した。

第2限のタイ製品の日本への売り込みについては、食品（エビ、イカ、鶏肉製品、冷凍野菜など）を例に取り上げて、実例や実態を挙げつつ説明した。特に食品の場合は、安全性と消費者が感じる安心の問題が重要であること、また食文化の理解では、匂いや歯ごたえの問題の具体例をあげて説明し、受講者の大きな関心を呼び、質疑応答が行われた。

結論としては、日本市場に参入するには食の安心と安全を第一義とし、また日本市場で定着するためには、日本の食文化の理解と日本のパートナーとの協力が不可欠であることが強調した。最後に世界中の人が日本との取引が厳しいことを承知しており、日本市場に参入できれば、繁栄する世界市場に繋がることを付け加え講義は終了した。

講義後の受講生の感想では、ABIC講師陣の話は大変具体的でまた実務的であり、彼らの興味に合致するものとして好評であった。

ABICはProfessional系（実務系）の講義を特に得意とするところであり、今後もこのような色々な各方面からの要請に積極的に応えていきたい。

教 育

関西での「英語で教える」講義法講習会を開催

2010年9月24日、関西デスクにて、立命館大学の堀江末来准教授を講師に迎え、既に英語授業講師をしている方や興味のある会員16名を集めて、昨年に続き第2回「英語で教える秘訣」というテーマの講習会を開催した。

関西デスクでは、2004年上期から桃山学院大学経営学部で開設された英語授業14コマの講義（「経営学特別講義－日本企業のグローバル戦略」）を担当して以来、今年に至るまで7年間継続してきている。

6名のABIC会員の講師がそれぞれ得意の分野をベースにした切り口で2~3コマづつを担当するというもので、オムニバス形式でやってきている。

この授業の対象は当初は留学生を中心として、聴講希望の日本人学生にも開放していたが、最近は専ら留学生のみを対象とした授業となっている。今年の場合、ヨーロッパからの留学生を中心に約25名が受講した。

また、追手門学院大学から要請を受けて、今年の9月から留学生を対象とする28コマの英語授業を担当している。「総合商社論」と「国際経済論」の2コースがあり、それぞれ14コマづつとなっており、各コースを4名の講師が担当している。

受講生は追手門学院大の海外の提携大学からの短期留学生で、米国（4名）英国（3名）オーストラリア（1名）・インド（2名）合計10名の少人数クラスとなっている。

文部科学省ほか関係省庁が策定した「留学生30万人計画」は、関西の主要な大学では真剣に受け止めて留学生の受け入れ努力を続けている様子で、上記関西デスクの活動に興味を持つ大学も多く、将来的にはニーズは必ずや増加するものと思われる。我々としても大学側の要請に対し、より広く対応出来るように講師陣のラインアップを整えて行きたいと希望している。関西の場合、絶対的に会員数も少ないうえに、英語で授業する旨を承して頂ける会員諸氏は更に少なく、カリキュラムを埋めるための講師の不足が頭の痛い問題である。



英語で授業する場合、堀江先生も強調されていたように、完璧な英語を目指さないことが肝心。海外に駐在してビジネスの現場に携わった経験豊富なABIC会員は、必ずや若い世代に伝えるべき知識や経験をお持ちになっているはずで、留学生はそんな具体的な生の話には興味を持って耳を傾けてくれるものと確信する。今後積極的に、この英語での授業に挑戦してみようと思われる会員の増加を期待したい。

さらに、堀江先生が講義の中で説明された、「アクティブラーニング（参加型授業）」の実践の重要性には納得。特に海外からの留学生は、もともとこの種の能動的な学び方に慣れており、知識伝授型（講義型）の授業に慣れて教育されてきた我々世代にとっては、大変重要なポイントで、まずは教える側として、グローバリゼーションに対応すべく、多様な授業方法を学んでいくことが肝要である。

最後に、日本を選んで来てくれた留学生に、日本の歴史や文化はもちろん、日本のビジネスの優れた面や特色を正しく理解してもらって、日本を好きになってもらえることを目標にして、ABIC会員として今後とも大学で英語で教える授業を拡充するとともに、このような講習会で教授法を進化させつつ、社会貢献に鋭意努めて参りたい。

（関西デスク プロジェクトスタッフ 吉富 茂隆）

教 育

産学共同プロジェクト

日本貿易会／ABIC／関西学院大学／青山学院大学 共催プロジェクト 第4回高校生国際交流の集い

日本貿易会並びに国際社会貢献センター（ABIC）は関西学院大学、青山学院大学と英語による第4回高大連携プログラム「高校生国際交流の集い」を開催した。

大学生が中心的役割を担い、産学協同の試みとして、日本と諸外国の高校生が寝食を共にし、グループ討議をした。関西は民間国際教育交流団体のAFS大阪支部、関東はAFS日本協会東京支部が協力した。

関東（7月24日～25日）

丸紅の協力により丸紅多摩センター研修所で、「ABIC CAMP 2010」と銘打ち「Discover the New」の主題の下に、グループ毎にテーマを決め、討議した。

参加した高校生は、横浜市立横浜商業高等学校、東京学芸大学附属高等学校、青山学院高等部、埼玉県立浦和高等学校、神奈川県立相模原高等学校、私立横須賀学院高等学校から日本人28名、米国、カナダ、イタリア、スウェーデン、ブルガリア、香港から来日中のAFS短期交換留学高校生20名の計48名。リード役は、青山学院大学大学生・AFSボランティアの大学生の計10名。AFS短期交換留学生は日本語研修も来日目的で、英語より日本語が通じやすい留学生もいることに着目、交流の場では英語のみならず日本語も話すこととした。

初日は、日本貿易会市村泰男常務理事（ABIC理事長）の開会挨拶の後、ハンバーガー・ゲームで打ち解ける場を設けた。午後は1955年AFS第一期生として渡米した渡辺来三郎氏がゲストスピーカーとしてAFS留学体験をわかりやすい英語で語った。グループ分けの後夕食を挟みグループ毎に個別テーマを決め、3回グループ討議を行った。

2日目、起床後体育館に集合し体操、朝食後4回目のグループ討議、スポーツ活動は大縄跳びで交流と連帯を深めた。その後昼食をはさみ5回目のグループ討議を経てグル



関東 参加者

ープごとに発表。参加者全員による投票で最優秀グループを選び、ABIC伊地知紀仁事務局長から賞品授与。続いて日本人、留学生双方から活発な感想が述べられ、言葉で言い尽くせないほど自分に自信を与えてくれたとのアンケート回答が印象的であった。最後に青山学院大学学生部副部長の尹志煌（よんしきょう）教授の閉会挨拶、参加者全員の記念撮影後、交流会を経て散会した。

（小中高校国際理解教育コーディネーター
角井 信行、川俣 二郎）

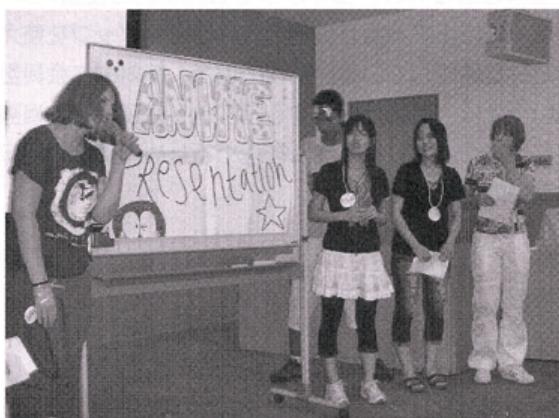
関西（7月23日～24日）

関西学院大学上ヶ原キャンパスを会場に「共に会い共に知ろう～This is it 2010」をテーマに開催した。

参加した高校生は、兵庫県立宝塚西高等学校、兵庫県立国際高等学校、大阪府立箕面高等学校、大阪府立千里高等



関東 初日開会式直後の打ち解け儀式？ハンバーガー・ゲーム



関西 グループ発表

学校、私立啓明学院高等学校、関西学院高等部から計41名。AFSの協力により、米国、メキシコ、イタリア、フィンランド、ブルガリア、ハンガリー、スウェーデン、タイ、マレーシア、インドネシア、カンボジア、中国（香港）の計12ヶ国から短期、長期留学生合計21名が参加した。関係者の努力により、回を重ねるごとに本行事へ参加する高校生、留学生の国籍数が増加してきた。

初日は、関西学院大学浅野孝平副学長による開会挨拶、グローベル関西学院長の講演に続き、今回初めての企画として関学大在学中ESSで活躍され、その後AFS一期生として渡米されたABIC会員の藤井健一朗氏（元新日本製鐵）が英語落語を披露された。高校生、留学生共、大いに笑い落語の面白さを実感した。高校生、留学生は昼食後のキックオフ レクレーションで直ぐに打ち解けあい、午後から、「マイケルジャクソンについて」「ファッショント衣料品」「ファーストフード」「学校でのいじめ」「結婚」「スポーツ」「アニメの世界」をテーマとした7グループに分かれ、ボランティア学生の熱心な指導によりディスカッションを開始した。

2日目もグループディスカッションを続けた。更に今回



関西 参加者

は、関学茶道部、書道部を訪問する機会を設け、留学生も日本文化の一端に触れることができた。

二日間に亘る合計3回のディスカッションを経て、各グループが工夫をこらして結果発表を行った。関学高等部大西加奈子教諭によるウイットに満ちた英語による講評後、参加高校教諭、ABIC伊地知事務局長を交え審査を行い、最優秀グループ及び優秀2チームを表彰した。伊地知事務局長からの挨拶、浅野副学長による閉会挨拶の後、参加者全員が茶話会に席を移し、改めて親交を深め合った後、散会した。

(関西デスクコーディネーター 大西 稔男、橘 弘志)

新刊紹介

『仏英日対照 ビジネスフランス単語集』

横田 納 著(ABIC会員、元住友商事、関西外国語大学教授)

発行：白水社 四六判230頁 定価2800円+税

※<http://www.hakusuisha.co.jp/>から紙面をご覧いただけます。

昨今、経済のグローバル化が加速的に進んでいます。特に日本企業は、少子化による国内需要の減少に対処するために、海外での売上高比率を急増させています。また、海外での製造生産も増えています。拡大しつつあるBRICs諸国市場はもちろんのこと、アフリカ諸国など新興マーケットの開拓はビジネスの重要なポイントです。

一方、インターネットに象徴される情報通信技術の進歩で、サブプライムローン問題のような世界の一地域で起こるできごとが、あっという間に世界中に拡がるようになりました。現地で使用されている言語でタイムリーな情報の収集と発信を行なうことが、企業活動にとって死活問題であることはいうまでもありません。

英語が世界共通語化しているとはいえ、フランス語圏の国々におけるビジネスを効果的に進めるためには、フランス語の語彙力・コミュニケーション力が重要なポイントとなります。

本書は、経済、金融、財務、産業、企業、貿易などの分野から最新2800語を豊富な用例とともに掲載いたしました。見出し語、用例はすべて仏英日で表記しております。付録として、主な計量単位、化学記号、そして巻末には便利な日本語索引をつけました。

フランス語圏との取引に従事されている方やフランス語地域への赴任準備をされている方などに幅広くご活用いただけることと確信いたします。



留学生支援

東京国際交流館での「日本語広場」講師を終えて

えんどう まさきこ
遠藤 真喜子（元三井物産）

2006年7月から4年半ほど講師として活動した東京国際交流館の「日本語広場」をご紹介いたします。

東京国際交流館は、独立行政法人日本学生支援機構に所属し、財団法人国際学生支援協会が運営しているお台場にある施設です。留学生や研究者の宿舎と「プラザ平成」という国際交流会議場などの施設があり、その中の日本語研修室で、居住する外国人留学生やその家族への学習および生活支援としての日本語教室をABICが担っており、「日本語広場」と呼んでいます。

そこでは金曜日を除く月曜日から土曜日まで、初・中・上級クラス、それぞれ90分授業を何人かの講師が受け持つておらず、私が火曜日中級クラスを担当した間に、19カ国、65名の受講生との出会いがありました。その中には日本語能力検定試験1級に合格した人も少なくなく、母国に帰って日本語教師になったとか、東京で起業したとか、また日本で生まれたお子さんの成長した写真を添えたメール等々の近況報告を頂くことが、私にとって何より嬉しいことでした。

私はABICとは別に、いろいろな場所で日本語を教えて参りました。地域のボランティアを皮切りに、区立小中学校に在籍する外国人児童生徒への取り出し授業や都立定時制高校（外国人生徒の受け入れ場所となっているのが現状です）、いわゆる就学生の通う日本語学校、企業内日本語研修、そして昨年からはABICからの推薦を頂き、多摩大学で教えております。

一般的の日本語教室では、カリキュラムやシラバスで学習総時間数や学習到達目標などが決められていることが多いのですが、この「日本語広場」はいつでも誰でも参加でき、曜日ごとに講師が変わり、あえて一貫した指導、継続的な学習をしない仕組みをとっています。ですから1回きり、



忘れたころに顔を出す、それぞれの受講生のレベルにはらつきがある、などというのは当然で、念入りに授業の準備をしたのに当日急遽変更せざるを得なくなった経験は、私以外の講師の方々も少なからずお持ちではないかと思います。しかしそのような中でも、居住期限の2年間、各曜日に熱心に通い続けた受講生も多く、彼らの旺盛な学習意欲と言語習得能力の高さには、さすが次世代を担う世界の優秀な人材の集団と感心させられました。

ウィークデーの午前中クラスとなると、約半数の受講生が留学生の配偶者でしたが、大学院生や研究者を夫にもつ奥様方もまた知的レベルが非常に高い上に、日本文化や日本事情へ深い関心をお持ちで、それに答えるべく常に受講生にとって有意義な時間となるよう心がけました。時には日本の食材をテーブルいっぱいに並べて楽しく会話をしたり、季節の和菓子を頂きながら実際にお抹茶をたててもらったり、各自のお料理を持ち寄ってパーティーと化したこともありました。また教室を飛び出し、初夏には明治神宮菖蒲園に出かけ、秋には両国でちゃんこ鍋をつつき、江戸東京博物館で昔の東京を感じてもらう、などなど。

この「日本語広場」でさまざまな活動や経験をさせて頂いたことに心から感謝申し上げるとともに、出会った多くの素晴らしい方々との交流を今後も大切に続けていきたいと思っております。私の趣味が国内外のフルマラソンを完走することを知っている元受講生たちから「先生、応援するから〇〇マラソンに来ない?」というお誘いをいつか実現したく、彼らとの再会を楽しみにしているこのごろです。



江戸東京博物館にて留学生と筆者（右）



交流館日本語広場受講生宅の食事会での筆者(右端)

留学生支援

東京国際交流館 国際交流フェスティバルと新入館者歓迎バザー

国際交流フェスティバル開催

猛暑が続く今年の夏、とりわけお台場の8月14日（土）は、暑さを吹き飛ばす様な熱気で溢れていきました。テレビ会社の人気催し物、大花火大会そして東京国際交流館の「国際交流フェスティバル」等お台場は全島“FESTIVAL ISLAND”となりました。

特に国際交流フェスティバルは、留学生とその家族約1,000人が住む交流館の敷地内で、世界各国の歌や踊り、ワールドPRブース、世界の料理が味わえる屋台、ミニSLの試乗、国際理解度検定クイズ、盆踊り、キャンプファイヤー等催し物が続き4,000人近くの人が盛夏の一日を楽しみました。

ABICは日本文化体験コーナーを担当し、茶道、華道、

書道の体験教室や作品の展示を行いました。この催しには普段の文化教室の先生方や受講生、更に先生方を応援する知人の方々やボランティア、そして嘗て交流館に在館した留学生の皆さんに協力ををしていただきました。

赤い毛氈の床机や日傘、金屏風に映える生け花、躍動感に溢れた習字の展示はさりげなく日本の伝統美に導きます。緊張した面持ちでお茶を味わう人、自分の生け花に感動して声をあげる人、手を墨で真っ黒にして喜ぶ子供達など参加者は250人になりました。

また盆踊りに参加する70名余りの留学生のために、ABICのボランティア・チームが着付け指導を行い、憧れの“キモノ”を正しく着ることが出来たと喜ばれました。



茶道体験教室



華道体験教室



書道体験教室

秋の新入館者歓迎バザー

10月16日（土）に、ABICの留学生支援活動の拠点であるお台場の東京国際交流会館で、新しく入館した留学生とその家族の便宜を図るために秋のバザーが開催されました。

このバザーの運営には、同館に在住の日本人学生や、交流館職員、およびABICの会員がそれぞれの役割を分担し参加しました。

当日は前日までの天気予報とは異なり爽やかな秋晴れとなり、中庭広場には沢山の衣料品、家庭用品等が並べられました。また外国人留学生とその家族によるお国自慢のフアーストフード店や子供の折り紙教室、風船教室もあり、大人も子供も秋の日差しの下で楽しく交流ができた一日でした。

また、交流館のご厚意により「ABICブース」が設置され、日本語広場の講師の方が待機し “Bazaar is not

all we provide, ABIC offer Japanese language and Culture Courses too.” の看板の下で、ABICの活動の説明や日本語並びに文化教室コースの受付を行い12講座への申し込みを得ました。

バザーでは多くの支援企業とその社員の方々、日本貿易会員やABIC会員からの440箱に及ぶ物品の寄贈を頂き、売上は24万円を超えました。これは従来通り交流館の留学生イベント支援等に充当されます。ご支援いただいた皆様には厚く感謝申し上げます。

(ABIC留学生支援グループ)



ボランティア活動

今年も懲りずに椅子人間（チェアパーソン）

—英語ディベート大会はABICの独壇場？—

にしかわ ゆうじ
西川 裕治 (ABIC活動会員、前日本貿易会広報G部長、双日(株))

本編は文字数が大幅にカットされた簡易版であり、暇人が夜な夜な書いた詳細レポートは下記ABICサイトに掲載されていますので、是非ご一読ください。一流企業を目指す学生さんは必読です。

〈詳細レポート目次〉

(www.abic.or.jp/reports/118/debate01.html、
www.abic.or.jp/reports/118/debate02.html)

<第1部> 今年も懲りずにチェアパーソン

(全国大学対抗英語ディベート大会はABICの
独壇場？)

1. 「チェアマン」と「イエスマン」(差別用語だ！)
2. 予想は大外れ(期待を裏切る超難関校)
3. ディベートと英國議会(日本国会との落差)
4. ディベートは頭脳の総合格闘技(あなどるなかれ)
5. チェアパーソンの苦労と密かな楽しみ(ウッシッシュと主催者への苦言)

<第2部> 全国大学対抗英語ディベート大会観戦記

(実況生中継編)

1. ディベートの構成(特に面白くはありません)
2. チーン！(激戦実況生中継)
3. おまけ(ここ、試験にでますよ)
4. 一流企業の求める人材・能力とは(就活者必読
「採用面接の実態」)

さて、日本英語交流連盟(ESUJ)が主催する「全国大学対抗英語ディベート大会」については、昨年の「日本貿易会月報11月号」と「ABIC Information Letter No.26」でもご紹介したが、今年も澄み渡った秋晴れの10月2日(土)第13回大会が開催され、代々木公園に隣接する国立オリンピック記念青少年センターに、2年連続で馳せ参じた。

今年の大会には、北は秋田から南は北九州まで国公私立28大学(32チーム)から英語マニアの精鋭大学生が参加。我がABICからは、百戦錬磨の商社OBなど10名の会員がボランティア「チェアパーソン」として参加し大会をサポートした。

ESUJのディベートは、英國議会での討論を模したもので、与党が提出した法案に対し、野党が反論する形式で行なわれ、各チームの英語力のみならず、情報力や分析力、論理性や説得力を競うものだ。

討論のテーマは、試合直前に発表され、賛成派・反対派のどちらになるかも直前に決まるので、英語力だけでなく、どんなテーマにも即座に対応できるよう、時事・社会問題に関する幅広い知識が要求される。



ディベートを華麗に仕切る緊張気味の筆者(中央)

試合は各チーム2人制で、Proposition(賛成派:与党)とOpposition(反対派:野党)に分かれて1試合約1時間を以下の時間配分で行われる。各チームとも予選4試合を戦い、上位8チームが翌日の決勝戦に進む。

1. Motionの発表および賛成派・反対派の決定
2. 作戦タイム (20分)
3. First Proposition Speech(賛成) (7分)
4. First Opposition Speech(反対) (7分)
5. Second Proposition Speech(賛成) (7分)
6. Second Opposition Speech(反対) (7分)
7. Opposition Summary Speech(反対) (4分)
8. Proposition Summary Speech(賛成) (4分)

また、予選4試合の論争テーマ(Motion)は次の通り。

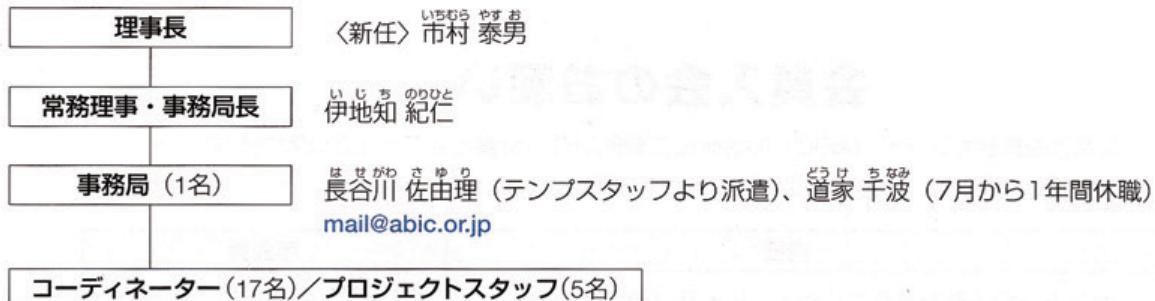
- 1) 「消費税は最も公平な税である」
- 2) 「幼児虐待の可能性がある場合は令状なしで住宅に入ることを許可すべき」
- 3) 「動物を食べることを禁止する」
- 4) 「日本は武器輸出を解禁すべき」

我々ボランティアは、朝9時半に代々木の会場に集合し、試合は10時から始まり1時間半程度の休憩や昼食休憩をはさみ、1日で4試合をこなす。予選の最終戦が終わるのは日暮れなずむ夕刻18時。これは平均年齢60歳を遥かに超えるABIC会員にとっては相当くたびれる。因みに、私は予選だけで疲れ果て、翌日、決勝戦の観戦は棄権した。

聞くところによると、最終決勝戦は「一院制より二院制を支持する」(This House prefers the bicameral system to the unicameral system.)とのテーマで、早稲田大学と東京大学の2チームで争われたが、レベルの高い激戦の結果、少差で早稲田大学が優勝したとのことだ。因みに3位に入ったのは、慶應義塾大学と国際基督教大学の2チームとのことで、こんな所にも偏差値教育の結果が如実に表れているのかも。ただし、ABICウェブサイトに掲載した「詳細レポート」では、「例外」の存在が紹介されている。

ABIC事務局組織

7月1日より下記の体制となりましたのでお知らせ致します。



() は兼務者、[PS] はプロジェクトスタッフ

| | |
|--|--|
| ● 総務・広報・OA | 扇 文子 <新任> 黒木 裕美 |
| ● 総務・会員登録関係 | 橋本 政彦 |
| ● 経理 | 高廣 次郎、佐藤 徹 takahiro.jiro, satoh.toku@abic.or.jp |
| ● 自治体・中小企業支援グループ smesupp@abic.or.jp | 西山 勝昭 nishiyan.katsuaki@abic.or.jp |
| ● 外国企業支援グループ support@abic.or.jp | 増田 政靖、森 和重、猪狩 真弓、布施 克彦、谷川 達夫、恩田 英治 masuda.masayasu, mori.waichiro, shikada.miyuki, bushi.katsuhiko, tanigawa.takao, onita.eiichi@abic.or.jp |
| ● 大学等講座グループ univ@abic.or.jp | 川俣 二郎、角井 信行 kawamata.jiro, kawai.shin'ya@abic.or.jp |
| ● 中高校国際理解教育グループ krikai@abic.or.jp | 田中 武夫、鍛形 勲 tanaka.takao, taniguchi.takao@abic.or.jp |
| ● 留学生支援グループ odaiba@abic.or.jp | 篠崎 尚 [PS] shinsuke.shimazaki@abic.or.jp |
| ● アジアグループ インドネシア・インド他デスク indo-desk@abic.or.jp メコンデスク mekong@abic.or.jp | (橋本 政彦) (森 和重) (藤原 照明、大西 稔男、橘 弘志、赤田 堅 [PS], <新任> 吉富 茂隆 [PS]) |
| ● 中南米デスク chunanbei@abic.or.jp | (森 和重) |
| ● 関西デスク kansai-desk@abic.or.jp | 藤原 照明、大西 稔男、橘 弘志、赤田 堅 [PS], <新任> 吉富 茂隆 [PS] |
| ● 産学共同プロジェクト | (角井 信行、川俣 二郎、大西 稔男、橘 弘志) |
| ● 新規案件 smesupp@abic.or.jp | 野津 浩 [PS] |

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mailアドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。
転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5979

新入会員(正会員)紹介

個人正会員 10月1日入会 小林 栄三氏（伊藤忠商事株式会社 代表取締役会長）

会員入会のお願い

国際社会貢献センター（ABIC）の活動にご賛同頂き、会員として資金的援助をしていただける個人の方や企業、団体のご入会をお願い申し上げます。

| 種類 | 内容 | 年会費 |
|------|---|-------------------|
| 正会員 | センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会) | 法人及び団体 一口 50,000円 |
| | | 個人 一口 10,000円 |
| 賛助会員 | センターの趣旨に賛同し、会費を納める個人、法人及び団体。 | 法人及び団体 一口 10,000円 |
| | | 個人 一口 5,000円 |
| 活動会員 | センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。 | 不要 一 一 |

正会員

団体・法人（17社）（社名五十音順） 〈10口〉 (社)日本貿易会 伊藤忠商事株式会社 住友商事株式会社 双日株式会社 豊田通商株式会社
丸紅株式会社 三井物産株式会社 三菱商事株式会社 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業株式会社 岩谷産業株式会社
長瀬産業株式会社 阪和興業株式会社 〈1口〉 協同木材貿易株式会社 興和株式会社 JFE商事ホールディングス株式会社 蝶理株式会社

個人（9名）（入会順・敬称略） 池上 久雄 寺島 實郎 小島 順彦 宮原 賢次 吉田 靖男
岡 素之 佐々木 幹夫 勝俣 宣夫（3口） 小林 栄三

賛助会員

法人（3社）

（社名五十音順）

（有）イーコマース研究所 （株）エックス・エヌ キーリサーチネット株式会社

個人（428名）

下記は2010年7月以降にお申し込み頂いた方です。ご協力に深謝申し上げます。 （敬称略・氏名五十音順）

| | | | | | |
|-----------|------|------|-------|------|--|
| 〈2口〉 三幣利夫 | 名鏡敬治 | | | | |
| 〈1口〉 岡本徹 | 柿山章 | 加藤保弥 | 川本康博 | 栗田政彦 | |
| 郷原康親 | 後藤克 | 鈴木惟高 | 鈴木成高 | 寺田好純 | |
| 西桂二郎 | 畠野浩 | 福原卓司 | 星野三喜夫 | 峯岸伸夫 | |
| 村澤嵩 | 森岳三 | 山邑陽一 | 横田納 | | |

活動会員 2,078名

（2010年10月末現在）

会員入会のお問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター（ABIC）

〒105-6106 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル6F (社)日本貿易会内

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5979 E-mail : mail@abic.or.jp